島根県看護協会情報誌

あかね雲

2022.1.20
NO.178

CONTENTS

◆会長あいさつ……P1
◆理事会報告……P2
◆協会の動き……P2
◆令和3年度
中国・四国地区助産師合同研修会……P3
◆「訪問看護総合支援センター試行事業」について……P4
◆支部活動……P5.6
◆ナースセンターだより……P7.8
◆ホットひといき……P9

津和野町／鷲原八幡宮

公益社団法人 島根県看護協会

新年のごあいさつ

公益社団法人島根県看護協会　会長　秦　美恵子

新春のお慶びを申しあげます。

日頃から島根県看護協会事業にご理解とご支援をいただき心より感謝申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症第５波により、県内でも看護職の皆さまには病院、宿泊療養施設や在宅療養の場、保健所等看護職を必要とするさまざまな場でご尽力いただきました。またワクチン接種の対応や新型コロナ感染症と対峙しながら日々の業務に最善を尽くしていただいている全ての看護職の皆さまに、敬意と感謝を申し上げます。新たな変異種オミクロン株による感染がこれまでにない速さで増え、収束の見通しがたたない状況ですが、ワクチン接種や治療薬等の明るい光も見えてきました。それぞれのフィールドでもうひと踏ん張りし、看護の力を結集してこの局面を乗り越えましょう。

島根県看護協会におきましては、県が発出する感染症対応を基本に、感染拡大防止を最優先して、研修や各種事業を実施いたしました。広い会場の確保、参集人数の制限、集合と分散会場によるハイブリッド対応、オンラインによる個別送信等、その時々の感染症発生状況に合せて柔軟な対応を行っています。また、アーカイブ配信により一定期間web上で録画を配信し、個々の都合に合わせて視聴できる環境を提供しました。ポストコロナの事業展開にもオンラインの活用は進めたいと考えています。

職能委員会事業、各委員会事業、県受託事業、前年度中止した認定看護管理者教育課程セカンドレベルも予定通り実施することができました。また、重点事業にも掲げています、県内における「認定看護師教育機関の開講」「訪問看護総合支援センター（仮称）の設置」は、知事要望や島根県看護連盟と合同での県議会議員要望、関係者との意見交換や実態調査等を経て、少しずつ動き出しました。会員の皆さまをはじめ、現場の声が大きな力となったと痛感しています。

さて近年、少子高齢化・人口減少が急速に進み自然災害も頻発するようになりました。また新型コロナウイルスの世界規模での蔓延等、私たちを取り巻く状況が大きく変化しています。２０２５年を目途に日本看護協会が表明した「看護の将来ビジョン」の実現に向けた取組みも終盤となり、さらに２０４０年を見据えて加速化・重点化が必要な事項として「看護の（価値の）可視化」、「地域における看護の拠点の創出」、「専門職としての働き方」の3点を揚げて、取組みが進められます。

激動する社会情勢の中で、先を見据え、看護が必要なところに質の高い看護が届くよう、人材の育成・確保・定着、生涯看護職として誇りと自信をもって働き続けられる環境づくりを、皆さまと共に進めていきたいと思います。２０２１年度の重点事業を踏襲しつつ、２０２２年度に向けて地域の特性を生かした協会運営に取組んでまいります。

今年の干支は「壬寅（みずのえとら）」、壬寅の壬は「妊に通じ、陽気を下に妊（はら）む」、寅は「螾（ミミズ）に通じ、春の草木が生ずる」という意味があり、厳しい冬を越えて、新しく生まれ、芽吹き始め、成長していく礎となる年といわれています。壬寅が持つ意味のように、皆さまにとりましても本会にとりましても新たな飛躍の年となりますよう願っていいます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和3年度　第5回理事会次第

【協議事項】

1　令和4年度重点事業について
2　公益目的事業の項目の見直しについて
3　令和3年度委員会報告（職能・常任・特別委員会）
4　令和3年度協会事業・委託事業・ナースセンター事業報告
5　令和3年度支部事業報告
6　令和4年度認定看護管理者教育課程（セカンド・ファースト）の実施について
7　令和4年度医療安全管理者養成研修の実施について
8　令和4年度第15回島根看護学術集会の開催について
9　令和3年度上期決算の概要・監査報告について
10　島根県看護協会理事及び監事の報酬等総額の上限の変更について
11　令和4年度支部の予算配分額（案）
12　島根県看護研修センター研修室等使用料金の見直しについて
13　令和4年度島根県看護協会職員の給与改定
14　令和4年度日本看護協会名誉会員の推薦について
15　令和4年度日本看護協会長表彰候補者の推薦について

承認

【報告事項】

1　日本看護協会第5回理事会
2　中国・四国地区法人会員連絡会・法人会員会
3　中国・四国地区職能委員長会
4　日本看護協会公益法人運営に関する勉強会
5　都道府県看護協会会員情報交換会
6　全国看護基礎教育担当者会議
7　都道府県訪問看護連絡協議会合同会議
8　都道府県看護協会広報担当役員会議
9　島根県看護研修センター建物調査について
10　令和4年度事業計画書及び予算要求書の作成・提出について
11　看護協会の動き

島根県看護協会の動き（2021年10月・11月・12月）

項目	月　日（曜）	実　施　事　項	出　席　者	場　所
日本看護協会	10月　4日（月）	都道府県看護協会会員情報交換会	徳若理事	WEB会議
	10月28日（木）	日本看護協会中国四国地区法人会員連絡会・法人会員会	秦会長他	高知県
	11月　5日（金）	全国看護基礎教育担当役員会議	原理事	WEB会議
	11月　5日（金）	日本看護協会公益法人運営に関する勉強会	植田局長他	WEB会議
	11/9～11/11	災害支援ナース派遣調整合同訓練	徳若理事他	看護研修センター
	11月11日（木）	都道府県訪問看護連絡協議会合同会議	秦会長他	WEB会議
	11月12日（金）	都道府県協会広報担当役員会議	徳若理事他	WEB会議
	11/25～11/26	日本看護協会理事会・法人会員会	秦会長	JNAホール
	12月　6日（月）	訪問看護総合支援センター中間ヒアリング	秦会長他	WEB会議
	12月16日（木）	都道府県協会災害看護担当者会議	秦会長・徳若理事	WEB会議
島根県看護協会	10月　7日（木）	知事要望	秦会長他	県庁
	10月12日（火）	圏域別看護関係者連絡会議（松江）	秦会長他	県民会館
	10月16日（土）	中国四国助産師合同研修会（Zoomウェビナー）	秦会長他	看護研修センター
	10月23日（土）	保健師職能交流集会	藤谷理事・徳若理事	あすてらす
	11月　7日（日）	助産師職能交流集会	落合理事・徳若理事	看護研修センター
	11月16日（火）	監査会	小森監事・秦会長他	看護研修センター
	11月22日（月）	常務理事会	秦会長他	看護研修センター
	12月　3日（金）	理事会	秦会長他	看護研修センター
	12月　3日（金）	島根県看護協会職能委員長会	秦会長他	看護研修センター
	12月　7日（火）	看Ⅱ委員会と老人福祉施設で働く看護師との情報交換会	大越理事・秦会長他	看護研修センター
	12月16日（木）	訪問看護ステーション協会・看護協会・ナースセンター情報交換会	秦会長他	看護研修センター・WEB会議
	12月17日（金）	宿泊療養施設対応看護師調整会議（東部・西部合同）	秦会長他	看護研修センター・WEB会議
	12月18日（土）	保健師職能委員会研修	藤谷理事・徳若理事	朱鷺会館
	12月23日（木）	訪問看護総合支援センター試行事業推進検討委員会	秦会長他	看護研修センター

令和3年度　中国・四国地区助産師合同研修会

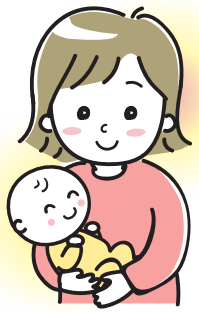
母子のための地域包括ケアシステム推進ワークショップ in 島根

助産師職能委員長　落合　永美

令和3年10月16日（土）島根県看護研修センターを主会場として、オンラインを活用した標記研修会を開催しました。この研修会は、日本看護協会助産師職能委員会から提示される活動目標を基盤とした「活動方法」の一環として、平成24年度から中国・四国地区の合同事業として岡山県からスタートしました。ワークショップ開催は9県で持ち回りとし、「院内助産システム推進」「助産実践能力習熟段階CLoCMiP活用推進」「アドバンス助産師の活動」「周産期の災害支援対策」「周産期のメンタルヘルスケア」をテーマにしてきました。

令和2年度は本県が担当でしたが、新型コロナウィルス感染症蔓延状況のため延期として、今年度に開催しました。研修目的は、妊娠期から子育て期における切れ目のない安全・安心な医療助産ケア提供体制の整備に向け、各地域の現状や課題を整理する。また、各県の助産師が情報を共有することでネットワークの強化をはかり、各地域のすべての妊産褥婦に“助産ケア”を届けられるシステム構築をめざす。開催方法は、新型コロナ感染拡大の最中であり、安全対応のためにzoomを使用したオンライン開催として、本県看護協会には関係者11名が参集、zoomアクセスは142件でした。

研修内容は、日本看護協会 常任理事 井本寛子氏による講演「母子支援のための看護機能連携システム～医療機関における産後ケア事業の普及促進に向けて～」と、広島県、香川県、島根県の助産師3名が、自施設の母子支援の取り組みについて情報提供しました。研修評価はWebでのアンケートの結果を活用した。（回収率は約30%）アンケート結果から「Web開催のため参加しやすかった」「日本看護協会の井本理事の講演で法改正の情報を得ることができた。また、全国の母子支援の状況をわかりやすく説明していただきとても参考になった」「今後も好事例を共有したい」「意見交換の時間があればよかった」「自分の地域でもできることから始めたい」などの記載から、研修の目的はほぼ達成できたと思います。今年度の研修会で9県を一回りしましたが、中国・四国地区助産師合同研修会を継続するか否かについては、後日に助産師職能委員長会で検討することになりました。いずれにしても助産師職能委員長がリモート会議などを利用して各県の活動についての情報共有は継続して行い、助産師の知識・技術向上に向けたネットワークの強化をはかっていきたいと考えています。研修会開催にあたり、協会事務局の多大なるご支援・ご協力を頂き無事に研修会が開催できたことに感謝しています。



「訪問看護総合支援センター試行事業」について

専務理事　徳若　光代

島根県看護協会の今年度の重点政策・重点事業の1つに「在宅ケア・訪問看護の実施及び促進」を掲げて事業展開を行っています。今年度は日本看護協会委託事業である「訪問看護総合支援センター試行事業」に取組んでいます。この事業の目的は「人材確保」「訪問看護の質の向上」「経営支援」ですが、地域の訪問看護に係る様々な課題を一体的及び総合的に解決し、訪問看護提供体制の安定化や推進支援を図る拠点となる、本県における訪問看護支援センター設置をめざしています。

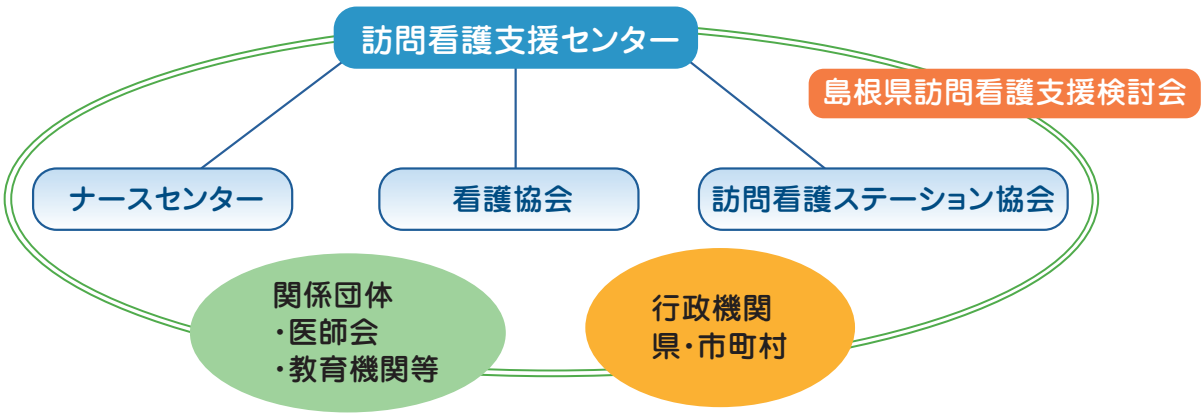
訪問看護ステーション協会，県行政、ナースセンター等のメンバーにより検討会をもって事業を進めています。主な事業内容は以下の通りです。

人材出向支援	○ 訪問看護出向研修事業 ○ 訪問看護師事業の合同報告会（予定）
新卒看護師採用に向けた取り組み	○ 島根の訪問看護を紹介する事業（予定） 新卒等訪問看護育成プログラムの紹介 若手訪問看護師等の体験発表
訪問看護に関する情報分析 教育・研修実施体制の組織化	○ 訪問看護ステーション協会支部長との意見交換 ○ 訪問看護教育研修に関わる関係者との意見交換 訪問看護人材確保・育成に関する現状と課題について実態把握
事業者向け相談対応	○ 訪問看護相談窓口の開設 令和4年1月17日～2月28日（試行期間）

こちらをクリックして頂くと
相談窓口専用の入力フォームに
移動します。

島根県訪問看護総合支援センター構想（案）

訪問看護ステーション協会等関係団体、行政、ナースセンター等と連携



支部活動

松江支部活動の現状と今後

松江支部長　出來　弘恵

12月に第2回研修会を開催しました。夏には島根県でも豪雨災害の発生があり、テーマを「災害時に備えた地域連携・それぞれの立場で支援を考える」として、講師に松江市子育て支援センター長で保健師の峰彰子様と訪問看護ステーションいつくしみ所長で在宅看護専門看護師の吉岡理枝様を御招きして開催しました。参加人数は少しだけ増員を図り62名が参加。災害に備えた体制や普段からの備品確保など多くの情報を知り、地域での関係者連携が大切であることを学ぶことができました。

秋にはイベント型での「まちの保健室」開催を計画していましたが、学園祭等はコロナ対策で縮小開催となっており参加困難な状況でした。現在は3月からの活動再開に向け企画の検討をしています。これまではその場限りの健康相談という感じでしたが、今後はかかりつけ医などへ継げて健康の維持・増進に寄与できる体制づくりを目指していきたいと考えています。

11月には県立松江東高等学校での進学ガイダンスを見学してきました。コロナの影響により多くの病院で看護体験が中止となっているため、看護職の仕事を伝え理解を深めてもらう活動は重要であると感じました。支部でも看護職普及活動に協力できるよう、新たに準備を進めていきます。

コロナ禍の影響により活動しにくい事もありますが、看護協会・各支部との情報交換や連携を図りながら支部活動を行っていきたいと思います。

コロナ禍での雲南支部活動

雲南支部長　井上　泉

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支部総会は新旧役員のみの参加で縮小開催し、書面での報告となり、また、支部総会後の第1回研修会も参加者の安全を考慮し中止となりました。まちの保健室は、イベント型で実施予定とする中、雲南市ウォーキング協会定例会のイベントがあり参加することができました。

第2回研修会は、役員で協議を重ね集合研修は難しいと考え、初めてリモート研修を企画し、11月9日雲南支部会員のいる9施設とつなぎ、リモート研修を開催しました。講師は雲南保健所　杉谷亮所長に依頼し、『災害時の保健医療活動に係る体制の整備等について』というテーマで、内容は災害時の行政の動き、医療現場で求められるものを中心にお話し頂きました。各施設感染予防対策を行い、76名と多くの研修参加者がありました。アンケート結果では、「災害対応について学べて良かった」「研修会をきっかけに改めて自らできることも含めて災害対応について考え、準備しておくことの必要性を認識した」「病院で働いているだけでは分からない行政や保健師の役割について学ぶことができた」「Web研修で参加しやすかった」等の意見をいただき、テーマとしても開催方法としても高評価の意見が多く、会員の方々の役に立つことができたのではないかと感じました。

コロナ禍の厳しい状況が続きますが、今後も会員の皆様のご意見を参考に支部活動が充実したものになるよう取り組んでいきたいと思います。

「あらゆる課題も『チャンスととらえて』チャレンジしよう」

出雲支部長　森脇　真由美

出雲支部では6月に「いま島根が面白い！～全国最先端の地から～」というテーマでローカルジャーナリストの田中輝美氏による研修会を開催しました。島根は人口減少の最先端であり、大正時代の人口と比較して唯一下回っているのがわが県であることに何故かしら納得しました。講演の中で、人口減少や過疎化、高齢化など課題はたくさんあるけれど、課題をマイナスにとらえる必要はなく、逆に「関わりしろ」がたくさんあること、つまりチャレンジできること、関わることがたくさんあること、「ないものねだりではなく、あるもの探しをする」というお話を聞き、私たちの日常のあらゆる課題にも通じることだと思い、とても前向きな気持ちになりました。また「関係人口をつくる」という、人は増えないなら限られた担い手をシェアする考え方についても興味深く聞きました。

11月には「コロナウイルス感染症の取り組みを共有しよう」というテーマで活動交流会を開催しました。島根医科大学附属病院感染管理認定看護師石飛映美氏に「コロナウイルス感染症の現状と看護の実際」、斐川生協訪問看護ステーション訪問看護師中村さおり氏に「訪問看護における感染症対策の実際」をお話ししていただきました。コロナウイルスに関する正しい知識を学ぶことができたことやステーションで防護具として雨ガッパやごみ袋を使用するなど様々な工夫をしながら感染予防に努め、他施設と連携をとりながら役割遂行されたことを聞き、病院とは異なる苦労や課題を知ることができました。その後各施設での現状や困難に感じていることなどについてGWをおこないました。「他施設での取り組みを知り、参考になった。」「看護師として大事にしていきたいことなど考える機会となった。」「大変な状況の中でも常に患者さんのこと、看護について考えておられる姿勢を知り元気をもらった。今の自分にできることを頑張っていきたい。」など前向きな感想が多くあり、有意義な交流会になりました。

「まちの保健室」は地域の健康イベントに1か所参加をしました。36名の参加者に血管年齢測定や健康相談を行い、疾病予防・健康維持に関する活動の必要性を再認識しました。また市内の中学校、高校を対象とした進学ガイダンスにも今年度から参加をしました。これからの少子時代において看護職の担い手を確保するためにもとても重要な活動だと思いますので、今後も積極的に支部活動として取り組んでいきたいと思います。

益田支部活動の現状

益田支部長　重岡　功治

益田支部では、令和3年度の支部総会は新型コロナ感染拡大を受け、新旧役員のみでの開催となりました。令和2年度から支部主催の研修会を予定する度に、当圏域において新型コロナのクラスターが発生してしまい、研修会の開催を中止してきました。このまま何も実施できないまま1年が過ぎるのかと心配していましたが、10月31日に健康ますだ市21推進協議会主催の「健康ますだ市21フェスティバル」が開催されました。この催事は、健康づくりへの関心・知識を高めることにより、日々の健康づくりへのきっかけとなるよう、広く市民の方々へ啓発することを目的とし、私たちは本協議会から支援要請を受け「まちの保健室」を開設するに至りました。私たちが行なったことは、来場者への血圧測定と簡単な健康相談でしたが、同じブース内では、血管年齢や骨密度の測定も行なわれていました。この他にも「ますだ版7020良い歯」の表彰や島根大学医学部附属病院から佐野千晶先生を講師としてお招きし「地域住民の健康をコロナから守ろう!」をテーマに講演が行われたりと、会場内の至る所で健康に関する催しが行なわれていました。今回は感染対策の一環として事前申し込み制で開催されましたが、スタッフを含めて200名の参加があり、地域の方々の健康への関心の高さが感じられました。

また、11月6日に第1回支部研修会として、ドキュメンタリー映画「人生をしまう時間（とき）」の上映を行ないました。この企画は前年度からの持ち越しで、3回目の企画にしてようやく開催することができました。この映画を視聴することで、在宅訪問診療の実際を垣間見、様々な家庭状況に対応する柔軟さと、患者様は当然ながら、その家族に対する心遣いが行き届いていることが印象的でした。在宅での看取りの実際を通して、在宅訪問診療がどのようなものなのかを考える良い機会になったと思います。

今後もしばらくは新型コロナウイルスとの付き合いが続くものと思われます。標準予防策を念頭に、コロナ禍でもできることを考え、支部活動を継続していきたいと考えています。

ナースセンターだより

私の復職ストーリー

ナースセンターを上手に活用してください。
看護職 と **求人施設** を無料でサポートします!

新型コロナウイルス感染症宿泊療養施設への再就業

第5波・第6波では2か所の宿泊療養施設が稼働し、看護職は県の会計年度任用職員として日勤・夜勤の2交代制で入退所の支援、健康観察、急変時の対応などに従事しています。

しまね宿泊療養施設(松江)

大西　眞紀

移動ナースバンクでこの仕事を紹介されました。ブランクがあり家族しか話す人もいなかったので、コロナに関わる仕事を怖いとは思わず、社会の仲間入りをさせてもらえる、やってみよう、という気持ちでした。いざ働き始めると、入所者さんは病気のこと、家においてきた家族のことなど、想像以上に強い不安を抱えておられると感じました。電話の声だけでしか健康観察ができないので、話す声のトーンや間に気をつけ、相手の気が済むまで話してもらい、今困っていることはすぐに対応をし、これまでの病状や心配事を把握したうえで体調を確認し、不安を受けとめるように心がけました。退所時の電話で「あなたが気にかけてくれていることはわかったよ。ありがとう」と言われた際は、「声だけでも気持ちが届くんだな」とこの仕事ならではの喜びを味わいました。

現場はその日初めて会う看護師、事務職員同士でチームを組み、本部、医師など顔の見えない人と声だけで協働する従来にないシステムですが、スタッフも入所者さんも協力してくれている、一緒の気持ちになる瞬間があり、その一体感は得難い経験でした。相手の立場に立って考えることを学びましたし、いろいろな発見があり楽しく働いています。

島根県立少年自然の家(江津)

西藤　美恵

島根県西部は平時より医療資源の偏在という課題と隣り合わせです。万一クラスターが発生すれば、受け入れ病院はもとより、地域の医療にも多大な影響が出ることが必至です。宿泊療養所は危機的状況を回避するために必要不可欠で、そこで従事する人材の確保が重要な課題となります。

現職の時から、プラチナナースの存在は潜在看護師のなかでもとりわけ大きいと考えていましたので、今春の退職を機に私自身も県の会計年度任用職員に登録しました。8月末、第5波を受けて宿泊療養所が開設されました。当初は不安もありましたが、複数病院から現職ナースの派遣があり、以後1か月間夜勤を含め週2～3日ペースで勤務しました。圏域を越えたオール西部の看護を身をもって体験したことで、改めて地域の力を実感することができました。県職員の方々の手厚いサポートのなか、宿泊療養チームの一員として運営の一端を担えた経験は、現在私の大きな喜びとなっています。

事前研修で動線の確認(江津)

退職される看護職の皆さまへ

離職時等の届出をお願いします!!(届出は努力義務となっています)

県内病院に、毎年「島根県ナースセンターのご案内」しおりを送付し、退職される看護職の方には、各所属施設の看護管理者を通し「届出」の推進をお願いしています。

退職される方は、しおりの中にある**届出はがき**を記載し目隠しシールをはり、看護部に提出するか、ご自分で送付してください。

このQRコードから、ご自分で登録もできます。

届出票に必要事項記載します。

目隠しシールを貼ります

看護管理者に提出 → 看護管理者はまとめてナースセンターへ送付

自分で投函 →

ナースセンターでは 受け取った届出票を登録し、研修の案内・求人票の送付・復職に向けて支援を行っています。

2021年度 訪問看護師養成講習会 訪問看護人材養成基礎カリキュラム

28名の修了生の皆様、おめでとうございます

5月にスタートした訪問看護師養成講習会は、12月22日のまとめレポート発表会を総仕上げとして無事終了しました。レポート発表会では、自らの問題意識に基づいた現代的・普遍的な課題が丁寧に取り上げられ、看護者としての熱い心が伝わる、学びに満ちたすばらしい時間でした。修了された28名の方に大きな拍手を贈ります。

今後のご活躍を期待します。

発表の様子

質問に答える発表者

訪問看護実習について

県内18か所の訪問看護ステーションにご協力を頂き、10月に一人3日間の実習を実施しました。コロナ禍にもかかわらず受けてくださった実習先では、同行訪問（3日間で5～12件）や担当者会議の参加など、大変貴重な経験をさせていただきました。

実習での学びの紹介　―実習記録より抜粋―

自分の勤めている病院で関わって退院支援を行ったAさんの、訪問に同行することができました。病院で見ていた介護者の顔と今回久々にご自宅でお会いした顔の表情の違いを見て、またAさんの姿や退院後の生活ぶりを知ることができて、とても幸せな気持ちになりました。病院でどんなに説明しても、家では想定外のトラブルも多くあることを知り、退院後に利用者さんやご家族が少しでも不安なく穏やかに生活していけるように、病院と地域の連携がスムーズに行われるように意識して、入院中から支援していきたいと思いました。

「勇気と刺激をもらった研修会」

訪問看護ステーション暖心　福田　育美

訪問看護事業所へ転職したばかりで、まだ1人で訪問が出来ず不安を感じていた春。職場にあった訪問看護師養成講習会のレポート集に目が留まりました。めくっていくと、大学時代の同級生や、共に働いた看護師達が書いたレポートがありました。知り合いの活躍を紙面で見て「みんな最初は悩みながらも、訪問看護で頑張っているのだ」と勇気づけられました。

その後、上司の勧めでこの養成講習会に参加する事になりました。そこには訪問看護師だけでなく、認定看護師、病棟看護師などフィールドは違うけれど同じ志を持つ仲間がいました。集合研修は不安や悩みを共有でき、勇気と刺激をもらえる場所でした。

この研修を通して得た知識を生かし利用者様に寄り添った看護を提供していきたいです。

「訪問看護の夢に向かってスタート」

訪問看護ステーションかわもと　大勝 千鶴

私は3年前Uターンで大阪から島根へ帰り、川本町で地域医療の中心的な役割を果たしている仁寿会に入職しました。入職後は病棟勤務でしたが、地域医療で活躍する訪問看護への夢があり、訪問看護師養成講習会を受講させて頂きました。講習途中より訪問看護ステーションへ異動となり、実際の現場で感じる悩みやジレンマ等、受講生と共有することができ、心の支えになりました。講習会はeラーニング、集合研修、訪問看護実習、発表と盛りだくさんでしたが、終わってみるとあっという間で、とても充実した内容でした。

今、やっと訪問看護師としてスタート地点に立った気持ちです。この気持ちを忘れずに、利用者さんと家族に寄り添い「来てもらって安心したよ」と言って頂ける訪問看護師になれるよう努力していきたいです。

ホッと ひといき

看護研修センターへの ご来館をお待ちしています

このたび、看護研修センター正面玄関の左側に、事務局職員手作りの花壇ができました。

ビオラやパンジーなど今はまだ小さな花々が寒風にゆられていますが、温かくなるにつれて大きくにぎやかになってくれると思います。“春よ早く来い”と待ち望みながら水をやっています。

また、玄関を入っていただいた正面には、12月にはコーヒーの木のクリスマスツリーを飾りましたし、今後も季節折々に工夫して行きたいと思っています。

来館される方々に、玄関で「ホット　ひといき」していただいて、研修や会議に臨んでいただけたらと思います。

その他にも、本会ホームページの「お問合せ」メールでは、会員の皆様からの問い合わせやご意見にも日々対応しております。協会事業に関するご意見・ご要望をお待ちしております。会員の皆様が集いやすい看護研修センターになる様に努めております。

どうぞお気軽にご来館ください。

お知らせ INFORMATION

訪問看護ステーション 出向事業報告会

日　時：令和4年3月5日（土）　13：00～16：30
会　場：看護研修センター
　　Zoommeeting　調整中

助産師出向支援事業報告会

日　時：令和4年3月19日（土）　13：00～16：00
　　Zoommeeting　調整中

「看護の日」記念のつどい

日　時：令和4年5月14日（土）　9：00～12：00
会　場：くにびきメッセ（松江市）

日本看護協会通常総会

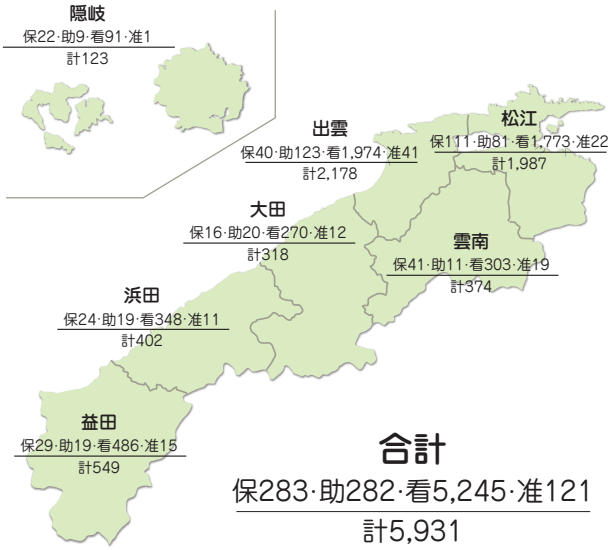
開催日：令和4年6月8日（水）
会　場：幕張メッセ（千葉県）

島根県看護協会通常総会

開催日：令和4年6月18日（土）
会　場：ビッグハート出雲（出雲市）

支部別・職能別会員数（合計）

（令和3年12月26日現在）



合計
保283・助282・看5,245・准121
計5,931

編集後記

厳しい寒さが続く中、新たな年を迎えました。新しいことに挑戦するのもいろいろと気を遣う毎日ですが、今年こそ新型コロナウイルス感染症が終息することを願うばかりです。医療・保健・福祉現場で日々ご活躍の看護職の皆様にとって幸多き年となりますように!!

【発行日】令和4年1月20日　【発行責任者】秦　美惠子　【編　集】公益社団法人島根県看護協会
〒690-0049　松江市袖師町7-11　TEL.0852-25-0330　FAX.0852-25-3157
https://www.shimane-kango.or.jp　E-mail:shimakk@shimane-kango.or.jp